

岩手県一関市舞川方言の副助詞

大橋 純一

I. はじめに

- (1) 調査対象地：岩手県一関市舞川。岩手県内陸部の南部、宮城県との県境付近に位置する。藩制時代は伊達藩領に属した。舞川は、一関市の中心部から北東方面へ約10キロ。農業を主産業とする、山間の集落である。ただし、縦にはJR東北本線、横には大船渡線が走り、交通の面での不便はない。1998年2月現在、世帯数795、人口3423。
- (2) 調査年月日：1998年1月25日 午後1時～4時30分
- (3) 話者：渋谷守彦 1930年8月1日生（67歳）
- (4) 調査者・調査場所：大橋純一、話者宅
- (5) 調査方法：統一調査票による質問調査
- (6) 表記方法：①方言事象はカタカナ表記とする。
②アクセントは高音部に傍線を付す。
③回答事象が複数にわたる場合は、斜線(/)を付し、列記する。順序は、原則として、話者の回答順とする。
④話者の説明は、*の後に記す。

II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

A. 添加

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。 ○アメバ^ーリ^ーデ ネ^ーア^ーデ カ^ーゼ^ーマ^ーデ フ^イデ ギ^ダナ^ー。
2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。 ○コド^スワ ホ^ーネ^ンデ ネ。 コ^メバ^リデ ネ^ーア^ーデ ム^ギマ^ーデ ヨ^ゲー ト^レダ。

B. 予想外の事実

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。 ①チャ^ケー ガ^ッコ シ^エー^トサ^エ タ^ヤス^グ ワ^ープ^ロ ツ^カッ^テン^ダ ヤ^ー。 / ②チャ^ケー ガ^ッコ シ^エー^トサ^エ カ^ンタ^ンヌ ワ^ープ^ロ ツ^カッ^テン^ダ ヤ^ー。
4. (宝くじが)当たると思っていなかっただけに嬉しい。 ①タ^ガラ^クズ ア^ダル^ド オ^モッ^テ ネ^ガッ^タモ^ンダ^ガラ マ^ズ エ^ガッ^タ ナ。 / ②タ^ガラ^クズ ア^ダル^ド オ^モワ^ネガ^ッタ^ケド ア^ダッ^テ マ^ズ エ^ガッ^タ ナ。

C. 条件

5. 暇さえあれば釣りに行っている。 ○シ^マサ^エ ア^レバ サ^ガナ^ズリ^ニバ^リ エ^ッテ^ルナ^ー。

D.例示

6. まあお茶でも飲んでください。 ①マ^ツズ オジャバリモ ノンデ^テテ。 / ②マ^ツズ オジャバリモ ノンデガ^ラ。
7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。 ○ミヤケ^ニ コノ マンジュ^ー {①ナ^ツド ②ナンカ} ナジョ^タベ ナ^ー。
8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。 ○モワズ ト^ソビアカ^ルグレ^ァー ウレスカ^ッタナ^ー。
9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。 ○マ^ーサガ オメ^ァー ドゴマ^デハナスサ エグドワ オモワ^ネガ^ッタ ヨ。
10. なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。 ○ブンナ^クッタリ ケ^ットバスタ^リステ ウ^ント ヤ^ツケダ^ケ。
11. 私になり相談してくれれば良かったのに。 ○オレ^デモ ソ^ーダン ステ ケ^ロ (レ) バ ヨガ^ッタ ナ^ー。
12. 野菜なんていくらでもできる。 ○ヤサイ {①ナ^ンテ ②ナンカ} ナンボ^デモ デギ^ル ヨ。

一対の語の例示

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。 ①ムガ^スワ オラ^エデモ {①ショ^ーユダ^ッテ ミソ^ダッテ ②ショ^ーユヤ ミソ^モ} ツグ^ッテタ^ンダ ヨ。 / ②ムガ^スワ オラ^エデモ {①ショ^ーユダ^ッテ ミソ^ダッテ ②ショ^ーユヤ ミソ^モ} コシャ^エテタ^ンダ ヨ。

択一

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。 ○オレ^ガ シャ^デッコ^カ オデ^ッテ^ァーニ エグ^ガラ。

例外でない

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだろう。 ○ソ^ンチョ^ーダ^ッテ ソ^ーヤルヨリス^カタ ネ^ガッタン^ダンベ^ー。

列举

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。 ○ハ^ルラ^スク ナ^ッテ ウ^メッコ^モ サ^グラ^モ エ^ッショ^ニ サ^エダ ヨ。

同類の暗示

17. テレビもそろそろ買い替えよう。 ○テ^レビモ モ^ー ト^クケ^ァーネ^ァグ^デワ ワガ^ンネ^ナー。

やわらげ

18. まあお茶でも飲んでください。 ①マ^ツズ オジャバリモ ノンデ^テテ。 / ②マ^ツズ オジャバリモ ノンデガ^ラ。

E. 包括

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。 ①コノ ボンニワ {①コガラ マゴガラ ②コヤ マゴナンカ} テージントマッサ クルッテダ。 / ①コノ ボンニワ {①コガラ マゴガラ ②コヤ マゴナンカ} テージントマッサ クルンダッテ。

F. 提題

20. ゲートボールだってできるよ。 ①オレワ ゲートボール {①ダッテ ②モ} デギル ヨ。 / ②アノ シトワ ゲートボールモ ケッコー デギル ヨ。

*自分のことを言う場合と他人のことを言う場合とでは、誇張の仕方が違ってくる。

話題にあげる

21. 何だい、いいことって。 ○ナニ ヤ。 ソンナニ エー コトッテ。

極端なもの提示

22. そんなこと子供にでもできるよ。 ○ソンナ ゴド ワラスコ {①デモ ②サエモ} デギル ヨ。

23. 食べることくらいは何とかしたい。 ○クー コトグレァー ナントカ ステ ナー。

24. 名前すらろくに覚えていない。 ○ナメァー {①モ ②サエモ} ログニ オボエデ ネァ。

25. 弁当代に千円もかかった。 ①ベントデァー センエンモ カガッタ ナー。 / ②ベントデァー センエンモ トラレダ ナー。

軽いものをあげる

26. これさえあればもう大丈夫だ。 ○コレダゲ アレバ ナントガ ナル ナ。

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

G. 分量・程度

27. 旅行で三日ほど家をあけた。 ①コネァーダ リョコーデ ミッカバリ エー アゲダ モン ヤ。 / ②コネァーダ リョコーサ エッテ ミッカバリ エー アゲダ モン ヤ。

28. 茶碗に半分くらいください。 ○コノ コップサ ハンプングレァー クラセァー。

29. 子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。 ○ワラスコセァーモ ワガルグレァーノ ラグナ ホンダ ナ。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。 ○エッシューカン {①グレァー ②バリ} エー アゲルガラ タノマス ヨ。

H. 基準

31. 今年の寒さは去年ほどではない。 ①コトスノ サムサワ キョネンホドデワ ネァー ネ。 / ②コトスノ サムサワ キョネンヨリワ ラグダ ネ。

I. 理由

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。 ①チョットバリ ユダン

スタンデ トンデモ ネァー コド ナッタ ヨ。 / ②チョットバリ ユダン スタンデ
トンデモ ネァー コド ナッタッタ。

*①は「とんでもないこと」がまだ解決せずに続いていることを、②は既に解決して
いることを表す。

J. 「それにふさわしく」

33. 苦勞しただけあって人間ができています。 ○クロー スタダケ アッテ イマデワ ヨ
グ ナッテ シトモ デギデル ヨ。

形式名詞的用法

34. 毎日孫のお守りやなんかで忙しい。 ○マエヌズ マゴノ コモリヤ ナンダカンダデ
エソガスーモンダ。

「それこそ」

35. それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。 ○ソリャー バゲズ ヒックリ
ヶァースタヨーナ オーアメダッタ ヨ。

「～ばかりか」

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。 ①オトツツァンモ オガサンモ ウンドーワ ナン
デモ コナスタモンダ。 / ②オトツツァンバリデ ネァグ オガサンモ ウンドーワ ヨ
ガッタ ヨ。

K. 今にも行われる

37. もう食べるばかりにしてある。 ○モー ユーハン クーバリニ デギデル ソ。

動作の完了直後

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。 ①エマ スコトガラ ケアッテ キタバリダ。 / ②
エマ ツイタバリダ ヨ。

基準

39. 駅までもうちょっとだ。 エギ {①マデ ②サマデ} モー スコスダ ネ。

L. 等量の反復

40. 一人ずつ呼んで話をした。 ○シトリビトリ ヨバッテ ハナス スタ ヨ。

*「ヨバッテ」は「呼んで」の意。

M. 等量の配分

41. 一人に二個ずつみかんをやる。 ○シトリサ フタツツツツ ミカンオ クレル。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N. 限定

42. 酒はたまにしか飲まない。 ①サゲワ トギドギスカ ノマネァー。 / ②サゲワ タ
マニバリ ノンデル。 / ③サゲワ タマニ ノンデルグレアダ。

*②の場合、「タマニバリ ノマネァー。」とはならない。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べてきた。 ○ケーサ̄ ネボケデ アサメス̄ クー シマ
ネグデ̄ パン {①ダケ ②バリ} クッテ̄ ケダ。
44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。 ○アンマリ̄ ベンキョー {①バガリ
②バリ} ステルヨリ̄ ソトサ̄ デテ̄ アソブ̄ンダ。
45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。 ○ホガノワ̄ ゼンブ̄ オワッ
タケンドモ̄ オラエノ̄ タンボ {①ダケ ②バリ} ノゴッテ̄ スマッタ̄ ヨ。

O. 強調

46. もうこれだけしかないよ。 ○モー̄ コレダゲスカ̄ ネァー ナ̄。
47. 今年こそいい年にしたい。 ○コドスコソ̄ イー トスニ̄ ステァー ナー̄。

P. 限界

48. これだけ言ってもわからないのか! ○コノクレァ̄ ユッテ̄モ ワガンネァーノ̄ ガ!
49. 2千円くらいまでなら何とかなる。 ①ヌセーングレァダラ̄ ナントガ̄ ツゴー デギ
ルベ。 / ②ヌセーングレァダラ̄ ドーニガ̄ ナンベ。

(4) 陳述的なもの

Q. 「～ば～だけ」

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。 ○コヤス̄ {①ヤレバ̄ ヤルホド̄ ②ヤレバ̄ ヤル
グレァ̄} モノワ̄ ヨグ̄ ナル̄ ヨ。

「仮定形・ば・こそ」

51. 心配すればこそ言うんだ。 ○スンベァ̄ ステッカラ̄ ユーンダ̄ ソ̄。
*こそは入らない。

「こそ・仮定形」

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。 ○アイズワ̄ (アノ̄ ヤロー)̄ モ
ンクバリ̄ エッテ̄ シトノ̄ ユーコドナンド̄ マーヅ̄ ゼンゼン̄ キカネァー ナ̄。

53. 「～でこそあれ」という言い方の存否。 ○無し。

「未然形・ば・こそ」

54. 押しても引いても動かばこそ。 ○オスタッテ̄ ヒッパッタッテ̄ マヅ̄ マッタグ̄ ウ
ゴガネァー̄ ヤローダ̄。

「～こそ。」

55. 失礼なことを言わないでこそ。 ○アノ̄ シト̄ ワルクチ̄ ユワネァー̄ シトダガラ̄。

「～こそ～が」

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。 ○エマデコソ̄ デアルギ̄ スネァ
ケントモ̄ ムガスワ̄ ケッコー̄ アルイタ̄ モンダ̄。

「～ば～ほど」

57. 働けば働くほどもうかる。 ①カセケバ̄ カセククレァー̄ ヨグ̄ ナルンダ̄ ヨ。 /

②カセ^レバ カセグク^レァー モーガル ヨ。

R. 打ち消しとの呼応

58. 村長に聞くまでもないことだ。 ○ソナ ゴド ソンチョーニ キググ^レァデモ ネ
ンデ ネァー ガ。

否定との呼応(それさえもない)

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。 ○アサ^レカラ エソカ^レスグデ シルメシ(チュー
ハン) モ クエネ^レガッタ。

否定的取り上げ

60. こんなものなどいくらでもあるよ。 ○コナ モンナ^レンカ ナンボ^レデモ アル ヨ。

全面否定

61. 誰だってそんなこと言われたら怒るよ。 ①ダ^レダッテ ソナ ゴド ユワ^レダラ
オゴルベッ チャ。 / ②ダン^レダッテ ソナ ゴド ユワ^レダラ オゴル ヨ。

S. 次の動作が不可能

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。 ①ジューネンメァーニ エー
デハ^レッテガラ エッカエモ エサ カエ^レッテ エガネァーモン ヤ。 / ②ジューネンメァ
ーニ エー デハ^レッテガラ エッカエモ エサ カエ^レッテ コネァーモン ヤ。

*①は自分が言う場合、②は親からみた場合。

(5) モダリティー的なもの

T. 不確かな気持ち

63. いつのまにやら眠ってしまった。 ○シャ^レネァー ウズニ ネデ スマ^レッタモン ヤー。

64. 何のことか分からない。 ○ナヌガ ナンダガ サ^レッバリ ワガンネァー ナ。

推定

65. 後で遊びに行くかもしれない。 ①ア^レデ アソビニ エグガ^レモ ワガンネァー ヨ。 /
②ア^レデ アソビサ エグガ^レモ シャ^レネァー ヨ。

どちらかわからない

66. 来るのやら来ないのやらよく分からない。 ○クル^レンダガ コネ^レァンダガ マ^レダ ワ
ガンネァー ネ。

はっきり言わない

67. どこやらへ引っ越したそうだ。 ○アノシト {①ド^レゴガサ ②ド^レゴサガ} シッコ
スタン^レダッテ。

U. 非難

68. お父さんたら今日も遅いのね。 ○オト^レツァン {①タラ ②テ} キョーモ オ
セー ナ。

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。 ○オト^レツァン {①タラ ②テ} ワ

ラスコミディーナ コド エッテ。

Ⅲ. 総括(まとめ)

1. 共通語の副助詞の意味に相当する方言副助詞は榮えず、多くの場合、共通語形がそのままに用いられる。
2. 方言、共通語、各副助詞共に、意味の相違や表現意図等によって細かい使い分けがなされるというわけではなく、どちらかといえば、ある一定の語が、種々の意味・表現に適用されがちである。

例) バリ

- 《添加》 アメバリデ ネアーデ (雨だけでなく)
- 《例示》 オジャバリモ ノンデガラ (お茶でも飲んで下さい)
- 《程度》 ミッカバリ (三日ほど)
- 《動作の完了》 ケアッテ キタバリダ (帰ったばかりだ)
- 《限定》 サゲワ タマニバリ ノンデル (酒はたまにしか飲まない)

例) グレー

- 《提題》 クー コトグレー (食べることくらい)
- 《分量》 ハンプングレー (半分くらい)
- 《程度》 エッシューカングレー (一週間ばかり)
- 《限界》 コノクレ ユツテモ (これだけ言っても)
- 《陳述的用法》 カセゲバ カセググレー (働けば働くほど)

3. そればかりか、時に、その意味に相当する副助詞が省略されたり、より単純なものに代用される場合もある。

例)

- ・オレガ シャデッコガ (私なり弟なりが)
- ・オトツァンモ オガサンモ (父ばかりか母さえも)

4. 当該方言では、微妙なニュアンスの相違を副助詞によって表出し分けるという行き方が一般的ではなく、むしろ、様々な意味・内容のものを、一定の副助詞により、単純化して言い表す方向に赴きがちである。
5. とすれば、副助詞に代わる何かはその部分(微妙なニュアンスの相違の表出)の機能を担っているはずであり、副詞、感動詞、文末詞等、関連事項の実態とそれらとの機能分担の関連性が注目される。

(おおしじゅんいち 東北大学大学院)